

災害時の情報共有に有効な 「グリッド入り電子国土基本図」

国土地理院北陸地方測量部
平成25年5月16日

災害時の地図に関する課題

防災機関からのニーズ(東日本大震災での反省)

- 機関ごとに使用する地図が異なっていた
- 住所情報の伝達において聞き間違い等が発生し、誤情報による混乱があった
- 管外の救助部隊は土地勘がないため、住所情報から位置を特定するのに時間を要した

中部圏共通のグリッド地図の検討

- 陸上自衛隊・警察・海上保安本部が、UTMグリッドを組み込んだ3機関共通の地図を作成した
- 中部圏地震防災基本戦略を策定(平成24年11月5日)
→実施すべき個別検討項目に、防災機関が使用する共通地図の作成が位置付けられた
- 戦略会議のコアメンバー20機関による共通地図の打ち合わせ(11月28日)
→中部圏では自衛隊仕様のUTMグリッド地図を共通地図とすることが決定された

これらの背景から

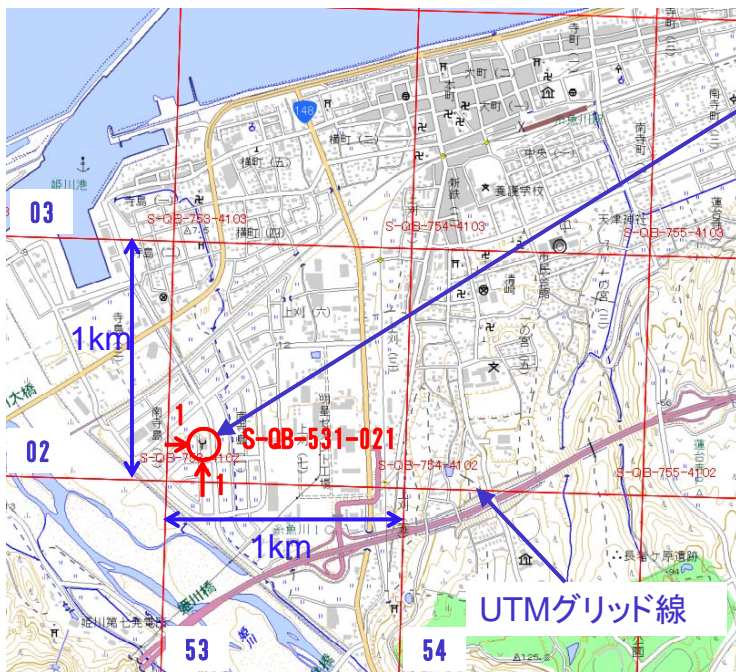
電子国土Web.NEXTに
グリッド表示機能を追加し公開

<http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse4/index.html>



グリッド入り地図を利用した情報共有

資料9




UTMポイントの読み方
糸魚川市消防本部のグリッド
53ラインから東(右)に1
02ラインから北(上)に1
座標値: QB-531-021

UTM座標 S-QB-531-021

S: 北緯32~40度 (R: 24~32度 T: 40~48度)
QB: 100km平方地域コードに則って、アルファベット2文字
で表示
531: ゾーンの原点から東(右)に、53100m
021: ゾーンの原点から北(上)に、2100m

※UTMポイント
UTM100km平方地域コード(アルファベット2文字)と
UTMグリッド(1km毎)をさらに東西・南北に10等分し、
表記したもの。

UTMIに不慣れ、土地勘が無くても、簡易かつ確実に特定位置を表現可能で、
他者との位置情報の共有が容易


 国土地理院

Geospatial Information Authority of Japan

逆引き(UTMポイントから目的地を探す)

資料9

緯度経度入力枠にUTMポイントを入力し、移動ボタンを押す

 電子国土 Web.NEXT
(試験公開) 中心緯度経度: 度分秒


糸魚川市役所を中心に地図が表示

電子国土 Web.NEXT
(試験公開) 中心緯度経度: 度分秒

UTM座標から緯度経度表示に切り替わる

糸魚川市役所のUTMポイント
QB-546-030

UTMポイントで伝達された位置をピンポイントで特定することが可能

 国土地理院

Geospatial Information Authority of Japan